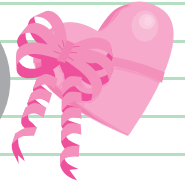


院内だより

2013年2・3月

No. 260



手術室の紹介

【現在の手術室】

手術室は10部屋あります。2部屋がクラス1000のバイオクリーンルームで、開心術や開頭術、整形の脊椎や人工関節の手術を行っています。8部屋はクラス10000の一般手術部屋で全て陽圧管理されています。そのうち1部屋が感染症手術のために陰圧に切り替えが出来るようになっています。十分な広さがあり、部署内にS.P.D.（医療材料・物流管理システム）倉庫も作られました。LED無影灯や統一した麻酔器、手術監視装置・生体情報管理装置などが設置されハード面が充実し、とても近代的な手術室になっています。また、手術管理システムや生体情報モニタリングシステムなどの導入により、ぐっと電子化が進みました。手術システムに関してはまだまだ使いにくいところがあるため、年度末までに修正予定です。

昨年の年間手術件数は4,645件で、平成23年より200件増加しています。9月は移転に備え50件ほど少なかったのですが、11月は416件と20件増えてきています。旧病院より2部屋手術部屋が増えましたが、まだスタッフ数に変更がないため同時8部屋稼働で管理しています。2部屋は緊急手術の対応や縦列の手術で使用しています。現在日々やりくりをしながら、18～22件の手術を行っている現状です。

一大イベントとして今年3月には、ロボット手術（ダ・ヴィンチ手術）が導入される予定です。すべてにおいて初めてなので、院内ロボット手術チームを中心にルール決めをし、スムーズに導入できるようにスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

【スタッフ紹介】

麻酔科の常勤医師は萩野先生・田部先生・高橋先生の3名です。1月からは高橋先生が産休に入られたので、しばらく2名体制になりました。万年医師不足ですが、ピンチヒッターにアネスネット・帝京大・福島医大・新潟大などから非常勤の

先生方がきてくださっています。各科の先生方にもお手伝いを頂いて大変助かっています。

スタッフは、課長・主任・副主任を含め看護師30名・ケアアシスタント5名、総勢35名おります。その他、スプロウト社よりS.P.D.スタッフが4名配属され、手術物品のピッキングや手術準備・後片付け業務を行い、看護師が手術室看護に専念できる環境を整えて頂いております。

看護方式は科別のチーム制をとっており、それぞれの科別リーダーがチームをまとめ、特殊な手術のマニュアル作りやメンバーの育成をしています。そのチームを課長・主任・副主任が束ねているという状況です。特徴として、長く配属になっている経験豊富なスタッフが多く大変頼りになります。そこにバリバリの中堅スタッフとフットワークが軽い若手スタッフで良い調和がとれています。またとても仲の良い「おとこ組」の男性スタッフがいて、頼もしくあります。今回の引越しに関してはスタッフ全員が団結したうえ、おとこ組が大活躍をして大変スムーズに進みました。

【おわりに】

1月から主任・副主任が変わり、新たな体制で出発しました。「もしも自分の家族だったら」の思いを大切に、術前・術後訪問に力を入れ、患者を待っているのではなく病室まで迎えに行けるような、手術室から外に出た手術室看護を目指して頑張っていきたいと思っています。

手術室はどうしても閉鎖的な印象になりがちですが、いつでも気兼ねせず手術室スタッフに声をかけてください。

